

平成28年度 病害虫防除技術情報 第3号

平成28年8月31日

大分県農林水産研究指導センター

農業研究部

猛暑における農作物の各種病害虫対策について

本年度は梅雨明け以降、平年に比べ気温が高く、降水量が少ない日が続いています。そのため、特定の病害虫が、平年より多く発生しています。8月25日福岡管区気象台発表の1か月予報では、平年に比べ気温が高く、降水量が平年並から多いと予想されており、今後の気象条件によっては被害の拡大が心配されます。各種病害虫の発生に注意し、速やかな防除に努めましょう。

1 被害が予想される主な作物

- 1) 大豆 「ハスモンヨトウ」、「ハダニ類」
- 2) 果樹 「ハダニ類」
- 3) 野菜 「ヨトウ類」、「ハダニ類」、「コナジラミ類」
- 4) 白ネギ 「軟腐病」、「白絹病」
- 5) 茶 「カンザワハダニ」

2 防除の考え方

- 1) 大豆のハスモンヨトウは、成長に伴って防除効果が低下するため、早期発見に努め防除適期を逃さず防除を行いましょ。
- 2) 大豆のハダニ類は、今後も高温・乾燥が続くと被害が発生する可能性があるため、状況に応じて防除しましょ。
- 3) 果樹のハダニ類は、防除適期の薬剤散布を心がけましょ。なおナシにおいては、品種や状況を見て、早期防除に努め、複数品種の混植園では、農薬の収穫前日数や他品種への農薬の飛散に注意しましょ。
- 4) 野菜のヨトウ類は成長に伴って防除効果が低下するため、早期発見に努め防除適期を逃さず防除を行いましょ。
- 5) 野菜のハダニ類とコナジラミ類は、高温・乾燥で増えやすいため、発生状況に注意し早期防除に努めましょ。

- 6) 白ネギの土中埋没部に白絹病の菌糸や菌核が確認されています。また、軟腐病と思われる腐敗が確認されています。高温乾燥により根が弱った状態で、降雨や台風の襲来があると、白絹病や軟腐病等の土壌病害の多発が懸念されますので、防除を行いましょう。
- 7) 茶のカンザワハダニは高温・乾燥で増えやすいため、発生状況に注意し早期防除に努めましよう。

3 防除上注意すべき事項

- 1) 防除薬剤は、大分県農林水産研究指導センター病害虫対策チームホームページ内にある「大分県主要農作物病害虫及び雑草防除指導指針」(<http://www.jppn.ne.jp/oita/>)を参照してください。なお、薬剤によっては、指針の更新日以降に登録内容が変更されている場合があるため、容器のラベルに従って使用してください。
- 2) 農薬使用基準（使用時期、使用回数等）を遵守し使用してください。特に、混合剤の場合、異なる商品名で同一の薬剤成分が含まれる場合があるため、「成分総使用回数」を十分確認した上で使用してください。
- 3) 薬剤によっては、高温時に薬害を生じやすいものがあるため、散布時間や天候、使用する展着剤の種類等に十分注意した上で散布を行ってください。



病害虫対策チームホームページ